

令和5年10月1日（毎月1回1日）発行 昭和43年1月10日第3種郵便物認可

MICHISHIRUBE

# みちしるべ

No.899

2023

10

October



## Contents

天国に王道なし／杉江和彦.....	3
愛とは何か／岡田圭司.....	4
著名人と聖書 第4回 エイブラハム・リンカーン／古賀敬太.....	6
私たちが帰るべき処／大塚進治.....	10
弱味／M・中野.....	13
この意味教えて（カタカナ篇） No.22 アルファ & オメガ／広沢 規.....	14



☆当月号および過去1年分のみちしるべを、電子書籍版にてご覧頂けます。 <https://e-michishirube.com>

# 天国に王道なし

杉江和彦



「学問に王道なし」という格言があります。これは、どんなに地位

の高い人でも、学問をする上で通らなければならぬ過程があつて、安易な方法はないという意味です。

私事で恐縮なのですが、私は学生達に勉強を教える仕事をしています。そして、よく生徒から「成績を伸ばすためにどうしたらいいか」という質問を受けます。確かに自分に合った勉強方法を探すことは大切です。しかし、もつと大切なことは、少々効率の悪い勉強方法でも、それを繰り返して、長時間することの方が重要です。そのような積み重ねの上で、自分なりの方法が見つかっていくのです。

さて、神のことはである聖書は、次のように教えています。

「あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、はいれません。」

(「マタイの福音書18章3節」)

これは、子どものように、自分を低くする者こそ、天国にふさわしい者という意味です。このことから私は、天国に入るためには、特殊な方法があるわけではないと感じます。謙虚になつて、神様の前に自分の罪を悔い改めるしかないのです。すなわち「天国に王道なし」です。

またその真理を悟るためには、聖書を読む必要があります。それも、高慢な心ではなく、素直な心で読むことです。そうすると、神様のことが心に多く入ってきます。落語家は弟子によくこう言うそうです。

「師匠の所に来るなら、空のコップで来い。」

何も入つてないコップには、たくさんのお水を入れることができます。これは、余分なものが入っていないこと、という意味だそうです。教えを受ける時には重要な姿勢です。

聖書は、すべての人に平等に語りかけています。そしてそのことばを正しく理解するには、先入観や固定観念に囚われずに、素直な姿勢で読む以外の王道はないのです。

# 愛とは何か

岡田圭司



「愛」とは一体何でしょうか。

歌や小説、ドラマに映画。世の中には「愛」をテーマにしたものがあふれています。私たちにとって「愛」はとても馴染みのある言葉です。

ただ、いざ意味について聞かれると「何と言ったら良いのだろう」と悩む人は多いのではないのでしょうか。

私も聖書に出会う前までは、そうでした。聖書には「愛」がたくさん登場します。

ここで有名な一節を紹介します。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになつたほかに、世を愛された。」(ヨハネの福音書3章16節)

このみことばは、今から2千年以上前にイエス様が十字架におかかりになった出来事を指しています。神様は、ご自分のたった一人の御子であるイエス・キリストを犠牲になさつたほど、私たち人間を愛されたという意味です。

私はこの箇所を初めて読んだとき、自分の愛する子どもを、誰かのために犠牲にするという発想に非常に驚きました。親にとって、我が子は何にも代えられない、大切な存在です。誰もが自分よりも子どもを犠牲を願っていると思います。だからこそ、子どもを犠牲にして何かを得るなどということは全く考えられません。自分自身を犠牲にするほうがよほど現実的でしょう。

神様にとつても、イエス様はかけがえのない存在でした。

それにもかかわらず、そのイエス様を犠牲になさったのです。愛の大きさを、払われた犠牲によって計れるとしたら、これほど大きな愛は他にないと思います。

しかもこうした愛が私たち人間に対するものだという点には、さらに驚かされます。

では、なぜ神様はこのようなことをなさったのでしょうか。その理由は、先に紹介した聖書のみことばの続きに書かれています。

「それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(同節)

人間は誰もが罪人であり、罪人の死後の行き先は地獄と定められています。しかし、神様は私たち人間を愛しておられ、私たちを天国に迎え入れたいと願っておられるのです。そこで御子イエス様をこの

地上に遣わし、この方にすべての人間の罪を背負わせ、私たちの身代わりとして十字架にかけられたのです。

このみことばを簡単な表現にすると、神様がイエス様のいのちを犠牲にされたのは、この方を信じる人が全員、地獄ではなく天国に行くためだった、と言ひ換えられます。神様がおられる天国に行く方法は、イエス様を救い主として信じること以外にないということです。

私は聖書を通して、ご自分の御子を犠牲になさったほどの神様の愛を知りました。それまでぼんやりしていた「愛」は、このことを通してはつきりしたように思います。

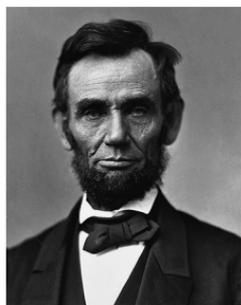
今、私が「愛」の意味について聞かれたら、どんな犠牲もいとわずに何かを大切にすることだと答えます。

あなたにもぜひ、この神様の愛を知っていただきたいと思います。

# 著名人と聖書（第4回）

古賀敬太

エイブラハム・リンカーン（1809—1865）



— 聖書と共に生きた大統領 —

リンカーンの苦難の人生

エイブラハム・リンカーンは南北戦争に勝利し、奴隷解放を行なった第16代大統領として知られています。しかし彼の人生は苦難の連続でした。

リンカーンは、1809年にケンタッキー州の

ロック・スプリングで大工のトマス・リンカーンと妻ナンシーの第二子として生まれます。7歳の時に両親の農場が破産し、9歳の時には母ナンシーが栄養不良と過労のため34歳でなくなり、彼は小学校を中退して、その後学校教育を受けることはありませんでした。

リンカーンと聖書

この苦難の人生でリンカーンを支えたのが聖書でした。リンカーンと聖書について考えるとき、母ナンシーの存在を忘れることができません。ナンシーは、朝早く起きて聖書を読み、祈りを欠かしませんでした。彼女は、リンカーンに「私はお前に百エーカー（12万2000坪）の農場を残すよりも、この一冊の聖書をあげることができて心からうれしく思います」と言い、聖書を読むことの大事さを教えませんでした。リンカーンは、母の信仰から受けた影響について次のように述べています。

「私がまだ幼く文字も読めない頃から、母は毎日聖書を読んでくれ、いつも私のために祈ってくれた。丸太小屋で読んだ聖書のみことばと祈りの声が、今でも私の心に響いている。私の今日、私の希望、私のすべてのものは、天使のような私の母から受け継いだものだ。」

彼は1861年の大統領就任演説で、「この古い聖書は、母から私に受け継がれた聖書です。私は、この聖書によって大統領となり、この場所に立つことができました。私は聖書のみことばによってこの

国を治めることを約束します。」と語っています。

このリンカーン聖書は、オバマ、トランプの大統領就任宣誓においても用いられました。

リンカーンが聖書について語った言葉、「聖書は神が人間に賜った最も素晴らしい贈り物である。人間の幸福にとつて望ましいものは、すべて聖書の中に含まれています。」は有名です。この言葉は、解放された黒人奴隷たちが、リンカーンに革の聖書に金箔を施した高価な聖書（その表紙に黒人奴隷の足枷を解くリンカーンの姿が刻まれている）を送った時に、リンカーンが語ったと言われています。

### リンカーンの使命―米国の統一と奴隷解放

リンカーンが1861年3月に大統領に就任した時に、奴隷制を支持する南部諸州が既に中央政府からの分離を表明していました。彼の大統領の第一の課題は、再び統合を成し遂げ、連邦を再建することでした。しかし同時に、彼の最も重要な政策として奴隷解放がありました。彼は、奴隷制度がいかに神

の意思に反しているかを、1854年10月12日の演説において語っています。

「奴隷制度は、正義と愛に反する人間の利己心に基づいています。80年余り前、この国は神の下ですべての人間は平等に創造されたと宣言したことによって始まりました。確かな事実は、この二種類の異なった考えが共存することはできないということです。」

また彼は、大統領に当選してからの1862年の日記に、「私は、奴隷を解放すると神に約束した。」と書き記し、1963年1月に奴隷解放の大統領令を出します。

### 南北戦争におけるリンカーンの祈り

リンカーンは、奴隷制度維持を求める南部諸州との間で南北戦争を余儀なくされます。彼は、聖書に親しむと同時に祈りの人でした。南北戦争の初期の頃は北軍の敗戦の連続でした。南部軍には、ロバート・リー將軍という名将がいましたが、北軍の指揮

官の無能ぶりは歴然としていました。大統領の執務室の側を通ると、祈っているリンカーンの声が聞こえてきたそうです。

「愛する神さま！私は足りないしもべです。私の力では成すことはできません。新しい力を与えてください。勇気を失わないように助けてください。最後まで神様と共に歩めるように私をお守りください。この民族を哀れみ、一日も早く戦争が終わり、統一した国を作ることができるよう助けてください。戦争で死んでいく若者たちをお守りください。」  
ウクライナ戦争が行なわれている現在、このような悲痛な叫びを持って神に心を注ぎ出して祈る指導者は、日本に、そして世界にどれだけいるでしょうか。

### リンカーンの暗殺

南北戦争で北軍が最終的に勝利したのは1865年4月9日でした。4月14日の午後、リンカーン大統領はフォード劇場で暗殺され56歳で死去します。暗殺される前に、リンカーンは妻のメアリー・トッ

ドに次のように語っていたそうです。

「大統領の任期が終わったら、ヨーロッパ旅行を一度して、次に祝福の地カナンの聖地旅行をしたいな。特にエルサレムの地を踏んでみたい。そこは、イエス様の息づかいが感じられ、主の足跡がある所だから。主が直接私たちの罪の重荷を背負ってくださった、苦しみの十字架にかけられたゴルゴダの丘、聖なるエルサレム。」

この言葉は、リンカーンがいかに主イエス・キリストの十字架の苦しみによって自分の罪が赦され、神との親しい交わりに導かれたかを示しています。

「キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。」（ペテロの手紙第一・2章24節）

## リンカーンの遺産

アメリカの第26代大統領のセオドア・ルーズベルト（1858～1919）は、次のように証言して

います。

「リンカーン大統領は、聖書で作られた人だ。彼は聖書の中から学んだ真理を、自分の生活に適用し、自分の一生をこの上なく栄光ある人生にした。彼は聖書とともに呼吸し、聖書とともに生きた偉大な神の人である。」



# 私たちが帰るべき処

大塚進治



あなたの人生の目的は何ですか、と問われた場合に、何と答えになられますか。

道を歩くにしても、目的なしに歩いている人はありません。買い物に行く。友達に会いに行く。学校や職場に行く。散歩をする等、必ず目的を持って歩いているはずですよ。そして、その目的を終えたなら、自分の家に帰るのではないのでしょうか。

旅行はなぜ楽しいのでしょうか。それは帰るべき家があるから楽しいと言われております。もしも、

帰るべき家がなければ、それは「放浪」ではないでしょうか。「放浪」とは、目的も帰る処もない、非常に悲しい、空しい状態のことを示します。

しかし現実には多くの人々が何の目的もなく漠然と生活をしているのではないのでしょうか。そのような人生は「放浪の人生」であります。

旧約聖書の中にこのように記されてあります。

「私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かつて行つた。」

(イザヤ書53章6節)

なぜ、このような人生を送るようになったかと言いますと、実は、私たちの造り主でいらつしやる真の神を見失い、さまよつた状態にあるからです。神から離れた人間は、自分の利益を追い求めて罪の闇路をさまよつていゝのです。

私たちは、神を無視した生活の結果、姦淫、好色、ねたみ、そしり、欺き、貪欲、高ぶり、殺意、憤り、悪だくみ、争い、親不孝、陰口を言う者、情け知ら

ずの者、慈愛のない者、等の多くの罪を犯す結果となったのです。

すべての人が神の前で罪人であり、罪のない人は一人として存在しません。

「人生とは、なんじ自身を知るにあり。」

かの有名な哲学者ソクラテスはこのように言いましたが、実際に自分がどのような状態にあり、そして生きているのか、非常に大切な問題ではないでしょうか。

そして最も大切なことは、人間の人生は死を以って終わりではないこと、すなわち、死後の世界があると云うことであります。

「ちりはもとあつた地に帰り、霊はこれを下さつた神に帰る。」（伝道者の書12章7節）

死とは、肉体と霊魂が分離することです。肉体は土に帰りますが、霊魂は神のもとに帰ります。霊魂とは、意志と人格を持った、「あなたそのもの」の

ことです。

あなたは、どのような状態で神のもとに帰るのでしょうか。罪のあるまま、罪人の状態で帰るなら、罪に対する審判があるのです。それは火と硫黄の燃える池がある、永遠の地獄に入ることです。（ヨハネの黙示録20章10節）そこは本来、墮落した天の使い（サタン）のために用意されていた処ですが、人間が罪を犯してサタンの支配の中に入ってしまった結果、そのサタンと同じ処に行かなければならなくなつたのです。

しかし神は、罪そのものは憎まれますが、私たち自身は、どのような状態になろうとも愛してください。ですから、私たちがその地獄に入らなくても済むように、神はご自分のひとり子、イエス・キリストをこの世に遣わしてくださいました。

イエス・キリストは神の御子ですから、罪のまつたかない、清い聖なる方でいらつしやいました。それにもかかわらず、十字架の上で死んでくださったのです。それは私たちの罪をすべて背負って、身代

わりとなることによって、私たちのすべての罪を償うためでした。さらにその罪の償いが完成した証拠として、三日目によりみがえって下さいました。

私たちは、この方を救い主と信じる信仰によって、すべての罪が赦されます。そして地獄に行かなくても済むばかりか、神がいらっしゃる幸いな天国に入ることができるのです。そこは、神の栄光と祝福の満ちた処であります。

もう一度本題に戻ります。

「あなたの人生という旅に、帰る処がありますか。」  
「目的を持って生きていますか。放浪の旅ではないですか。」

このことを、真剣にお考えなさってください。

人間は神によって造られ、神によって現在生かされておられ、そしてまた、神のもとに帰るのです。イエス・キリストを信じることで、罪を赦されて天国へ行くか、罪をそのままにして地獄に行くか、人生は、究極的には、この「二者択一」なのです。

どうかその選択において良い方、幸いな道を選ん

でください。そのうえで神の前に、有意義な人生を送ってください。

「私があなたがたに最もたいせつなことからして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によりみがえられたこと」

(コリント人への手紙第一・15章3、4節)



# 弱味

M・中野

弱味は 神さまに見せてもいい  
神さまの御前に すべては明らか

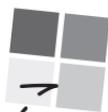
いいかっこうをすることはない

むしろ  
神さまは そうする者を きらわれる

弱いからこそ  
神さまは救おうとされる

弱味は神さまに  
充分に見せていい





# この意味教えてーカタカナ篇ー

広沢 規の

No.22

## ・アルファ & オメガ



全聖書は66巻から成り立っており、最後の巻が「ヨハネの黙示録」になります。その第1章だけを読んでも、イエス様はさまざまな呼称で紹介されています。例えば「確かな証人」「死者の中から最初に生まれた方」「地の王たちの支配者」(以上5節)、「人のような方」(13節)、「初めであり、終わりであり、生きている者」(17、18節)などです。

なぜイエス様にはたくさんのかの呼称があるのか

しょうか。イエス様は比類のない御方だからです。一つの呼び名では、この御方の本性と素晴らしさを語り尽せないからです。そして「名は体を表す」と言いますが、一つ一つの呼称にはそれぞれの意味があります。そしてその1章でイエス様ご自身、「わたしはアルファであり、オメガである。」(8節)と自分を紹介していますが、今回は、その呼び名について考えてみます。

さて、ギリシャ語のアルファベットは、「アル

ファ (a)、「ベータ (β)」と始まり、その終りが「オメガ (ω)」になります。英語と同じで24文字あり、日本語の五十音で言い換えると、『あ』で始まり、『ん』で終わる」といった感じになります。特に最後のオメガは、「完全、達成、究極」という意味を持ち、有名なスイスの高級時計の由来となっているようです。

つまり「アルファであり、オメガである」と言った場合、すべてのアルファベットを網羅するということであり、イエス様はありとあらゆるすべてのことを網羅されている方なのです。「キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」(コロサイ人への手紙3章11節)と証しされているとおります。

またこれと同じような呼び名、「初めであり、終わりである」では、永遠の初めから存在され、永遠の終わりまで存在される方、という意味になります。

さらにこの御方は、「万物の相続者」「世界を造られ」(ヘブル人への手紙1章2節)、「その力あ

るみことばによつて万物を保つておられ」(同3節)と記されており、万物の創造と支配に携わっておられる方であると分かります。つまり「万物の存在の目的であり、また原因でもある神」(同2章10節)です。そして、天地創造をされた方であると同時に、最後の審判をなさる方でもあります。

そしてこの地上において、信仰による歩みを完成された、「信仰の創始者であり完成者である」(同12章2節)御方です。そのような素晴らしい方が、実に、私たちのために十字架にかかって、「罪のきよめを成し遂げ」(同1章3節)てくださいました。

皆さまも、この御方が、「アルファであり、オメガである」と呼ばれるのにふさわしい御方であると信じてください。この比類のない救い主イエス様を心から賛美する方となってください。

### みちしるべ10月号 第899号

令和5年10月1日 (毎月1回1日) 発行

発行所 伝道出版社  
〒183-0056 東京都府中市寿町 2-8-9  
TEL 042-366-7760  
FAX 042-366-7790

編集人 伝道出版社 編集部  
<https://dendoshuppan.shop-pro.jp/>  
印刷所 株式会社 共同印刷所

昭和43年1月10日第3種郵便物認可

令和5年10月1日(毎月1回1日)発行

みちしるべ10月号 第899号

伝道出版社  
〒183-0056 東京都府中市寿町2-8-9

Column 

## 残り続けてしまうごみ

山登りをしていると、長いトンゴとごみ袋を持って「清掃登山」をしてくださっている方にお会いすることがあります。山に捨てられたごみは分解されないため、誰かが膨大な時間と労力を費やして取り除く必要があるのです。

すべての人が抱えているごみがあります。それは、私たちが造られた神さまに背を向けてしまう性質—罪というごみです。このごみも勝手に消えることはありません。また、どんなに時間と労力を費やしても、人の力では処理できません。

限られた人生の中で、私たちは自分の罪を認識し、このごみを神さまに取り除いていただく必要があります。なぜなら、このごみを抱えたまま死を迎えてしまうと、火の池に投げ込まれ、いつまでも焼き尽くされることなく残り続けてしまうからです。

「あなたがたが知っているとおおり、キリストは罪を取り除くために現れたのであり、この方のうちに罪はありません。」

(ヨハネの手紙第一・3章5節)

キリストは、私たちの罪というごみを背負って十字架に釘付けられ、罪を取り除いてくださいました。罪が取り除かれる唯一の方法は、そのごみが既に処分されたという事実を信じ受け入れることなのです。

(福井 雄一)

なお、くわしく聖書について知るために、下記の所へぜひおいでください。



定価1部50円+税  
送料63円  
振替00140927336